

2024年1月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	15,668,452	7,509,170	208.7%	25,436,845	61.6%
国内旅行	3,264,305	3,400,520	96.0%	3,787,379	86.2%
訪日旅行	675,842	446,605	151.3%	1,960,177	34.5%
合計	19,608,599	11,356,297	172.7%	31,184,402	62.9%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデーtravel、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較をするとともに、2019年同月比を記載しております。

■海外旅行

HIS 最大規模のセールである「初夢フェア 2024」を通じて、「本場アメリカで野球観戦チケット付きのロサンゼルス5日間ツアー」や、2023年に帰国したパンダたちと再会「2つの世界遺産&パンダの故郷を訪れる 成都・雅安・都江堰5日間ツアー」など、「心躍る」旅行会社ならではの特別企画を展開し、海外旅行の需要喚起に努めたことで、2月・3月出発の取り込みが好調に推移しました。

1月出発の取扱高においては、高騰している燃油サーチャージの影響もあり、2019年同月比で61.9%と、先月、先々月に比べ回復の弱さがみられました。その一方で、台湾が、女子旅やカップル・ご夫婦を中心に、2019年同月比で80.6%と、先月に比べ+4ポイントと増加しており、韓国に次ぐ人気渡航先として定着しています。また、ヨーロッパ方面が2019年同月比94.0%と安定的な回復をみせており、特に添乗員同行ツアーにおいては、2019年同月比を上回るなど、取扱高を牽引しました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比208.7%、2019年同月比61.6%の156億6,845万円となりました。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	2019年同月比
アジア	63.3%
オセアニア・南太平洋	82.2%
ハワイ・ミクロネシア	34.1%
欧州・中近東・アフリカ	92.3%
北米・中南米	79.4%

商品別	2019年同月比
手配旅行	64.8%
企画旅行	57.0%

チャネル別	2019年同月比
店舗	49.5%
オンライン	87.1%

■国内旅行

日本各地で訪日旅行客が増加するなか、混みあう前に早期に国内旅行をご検討いただけるよう、ツアーの早期割引の設定や、予約サイトの利便性向上のため、「売れ筋順」での表示の追加や、株主優待券をオンラインでもご利用いただけるよう、システムを改修しました。

1月出発の取扱高においては、バスツアーが103.3%と2019年同月比を上回り好調に推移しました。特に世界有数の豪雪地帯である新潟県・津南町の冬のイベント「スカイランタン」を体験できるツアーの人气が高く、関東・中部地区から多くのお客様にご利用いただきました。一方で、高単価である航空機を利用したツアーが、2019年同月比において下回りました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比96.0%、2019年同月比86.2%の32億6,430万円となりました。

■訪日旅行

タイ最大規模の旅行博「Thai International Travel Fair」に出展し、自治体や観光施設、HIS バンコク法人で共同開発した訪日商材の販売と日本の魅力の提案を行いました。特に桜の開花シーズンとタイの旧正月「ソクラーン」の旅行需要の獲得にむけて、集客強化に努めました。また、新たな商品として、大相撲1月東京場所の観戦ツアーを17カ国で販売し完売するなど、着地後のアクティビティツアーが好調に推移しました。取扱高においては、主に東南アジアのHIS現地法人からのインセンティブ団体旅行が牽引しました。なお、中国マーケットに関しては引き続き回復に時間を要しております。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比151.3%、2019年同月比34.5%の6億7,584万円となりました。

2024年1月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比172.7%、2019年同月比62.9%の196億859万円となりました。

2024年1月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
インバウンド	6,939,843	3,560,419	194.9%	10,420,690	66.6%
アウトバウンド	17,765,854	18,546,653	95.8%	5,963,052	297.9%
合計	24,705,698	22,107,072	111.8%	16,383,742	150.8%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 35 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、Merit Travel、Jonview Canada、Red Label Vacations) の社内取引相殺前の取扱高となります。また、2019 年度は旧会計基準、2024 年度のツアー商品は「進行日」、手配旅行は「手配完了日」に計上基準を変更した参考値となります。また、コロナ以前と比較するため、2019 年同月比を記載しております。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■ 海外インバウンド

韓国法人では、K-POP のファンミーティングツアーの受客が好調に推移したことで、前年同月比 297.8%、2019 年同月比 118.0% となったほか、イギリス法人では、プレミアリーグ・サッカー観戦に伴う日本からの需要を獲得し、前年同月比 213.9%、2019 年同月比 92.5%と順調な回復をみせました。カナダ法人の「Jonview Canada (※1)」では、カナダでの冬季スキー需要を確実に捉え、前年同月比 118.3%、2019 年同月比 159.6%と海外インバウンド事業の取扱高の回復に貢献しました。「Group MIKI Holdings (※2)」では、欧州地域がローシーズンではあったものの、団体旅行の受客が伸びたことで、前年比 184.2%、2019 年同月比 74.7%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 194.9%、2019 年同月比 66.6%の 69 億 3,984 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

インドネシア法人では、政府系教育機関からの受注や、現地日系企業による日本行きインセンティブ旅行の受注により、前年同月比 150.3%と好調に推移し、2019 年同月比 98.3%まで回復しました。また、ハワイ法人では、北海道行きスノーツアーをはじめとする日本行きのツアーが好調に推移し、前年同月比 102.3%、2019 年同月比 115.2%となりました。海外アウトバウンド事業の取扱高を牽引するカナダ法人の「Red Label Vacations (※3)」では、今年は暖冬であったことから、遠方の温暖な地域よりも、近場の地域へのニーズが高まったことで客単価が下がり、取扱高は前年同月比 91.6%となりました。(2019 年同月は連結対象外)

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 95.8%、2019 年同月比 297.9%の 177 億 6,585 万円となりました。

2024 年 1 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 111.8%、2019 年同月比 150.8%の 247 億 0,569 万円となりました。

(※1) 「Jonview Canada」(連結対象：2017 年 12 月～)

カナダを代表するツアーオペレーターとして、欧州からの受客を中心にインバウンド事業を展開。世界中の旅行業向けの商品やサービスを多数提供し、30 年以上にわたり事業展開する中で、カナダ国内の 2,000 以上を超えるサプライヤーと提携。8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

(※2) 「Group MIKI Holdings」(連結対象：2017 年 5 月～)

欧州並びに日本を含むアジア各国の 30 都市以上で事業展開するグローバルツアーオペレーター。サプライヤーとの強い信頼関係に基づく確かな仕入と、きめ細やかな手配力・現地を知り尽くした企画力で、世界中の旅行会社の安心・安全・高品質な旅作りを実現。

(※3) 「Red Label Vacations」(連結対象：2019 年 3 月～)

カナダを拠点にオンライン旅行販売とホールセラー事業を通じてアウトバウンド事業を展開。オンライン販売のブランド (redtag.ca と itravel2000.com) を通じて、世界中のパッケージツアー、フライト、ホテル、周遊など、多様な旅行商品を提供。ホールセラーとしては、カナダの旅行代理店にあらゆる旅行商材を提供。8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
広報室：050-1746-4177